

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

化成品工場におけるボイラーの更新
(灯油→都市ガス)

排出削減事業者名：

川研ファインケミカル株式会社

排出削減事業共同実施者名：丸紅株式会社

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	川研ファインケミカル株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	福井工場
住所	福井県越前市北府1丁目3-34
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	丸紅株式会社
その他関連事業者	
関連事業者名	

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

化成品工場におけるボイラーの更新（灯油→都市ガス）

2.2 排出削減事業の目的

工場で使用しているボイラーを高効率の機種へ変更することにより、二酸化炭素排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

これまで使用していた灯油ボイラーを高効率の都市ガスボイラに更新することにより、エネルギーの使用の合理化を進め、二酸化炭素排出量の削減を図る。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

排出削減事業計画 4 項に沿って記載（計画から変更あった場合は、実際の開始日に変更して記載）。

2011 年 5 月 9 日

3.2 モニタリング対象期間

（本報告における実績報告期間）

2013 年 4 月 1 日 ～ 2019 年 4 月 30 日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

排出削減事業が活動量指標を採用している場合、排出削減事業計画 5 項に沿って記載。

4.2.1 活動量・原単位

活動量・原単位は採用しない。

4.2.2 活動量の採用根拠

活動量は採用しない

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

本事業のバウンダリーは当工場内のボイラー（更新前 2 台、更新後 3 台）およびその蒸気が供給される機器である。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に変更 ある場合、) 変更理由
$F_{fuel,PJ}$	都市ガス使用量	千 Nm ³	2013 年度: 309.213 2014 年度: 279.542 2015 年度: 276.953 2016 年度: 300.078 2017 年度: 317.008 2018 年度: 330.709 2019 年度: 24.745	ガス供給会社からの検針票に記載された値を標準状態※に換算。	変更なし。 ただし検針用ガス流量計は 0.981kPa (中圧)、15℃での値を表示する仕様となっているため、この圧力、温度から標準状態に換算する。
$HV_{fuel,PJ}$	都市ガスの単位発熱	GJ/ 千 Nm ³	2013 年度～2014 年度: 45.1 2015 年度～2016 年度: 45.0 2017 年度～2019 年度: 45.1	J-クレジット制度 デフォルト値	変更なし
ε_{PJ}	事業実施後のボイラーのエネルギー消費効率	%	88.2	カタログ値	変更なし
ε_{BL}	事業実施前のボイラーのエネルギー消費効率	%	80.8	カタログ値	変更なし
$CF_{fuel,BL}$	事業実施前の燃料 (灯油) の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2013 年度 ～2019 年度 : 0.0686	J-クレジット制度 デフォルト値	変更なし

CF _{fuel,PJ}	事業実施後の燃料（都市ガス）の単位発熱量あたりの排出係数	tCO ₂ /GJ	2013 年度 ～2019 年度：0.0513	J-クレジット制度 デフォルト値	変更なし
-----------------------	------------------------------	----------------------	----------------------------	---------------------	------

※ 検針用流量計は 0.981kPa (中圧)、15°Cでの値を表示する仕様となっているため、この圧力、温度から標準状態に換算

6 排出削減量の計算

承認排出削減事業計画において採用した算定式に基づき、モニタリング対象項目実測値等を反映した計算結果を記入すること。

注) 複数の方法論を採用している場合は、方法論ごとに排出削減量の計算結果を記入すること。

6.1 事業実施後排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	309.213	45.1	0.0513	715.4
2014 年度	279.542	45.1	0.0513	646.8
2015 年度	276.953	45.0	0.0513	639.3
2016 年度	300.078	45.0	0.0513	692.7
2017 年度	317.008	45.1	0.0513	733.4
2018 年度	330.709	45.1	0.0513	765.1
2019 年度	24.745	45.1	0.0513	57.3
単位	千 Nm3	GJ/千 Nm3	tCO2/GJ	tCO2
	EM _{PJ}			4,250.0

6.2 ベースライン排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	15,222.7		0.0686	1,044.3
2014 年度	13,762.0		0.0686	944.1
2015 年度	13,604.3		0.0686	933.3
2016 年度	14,740.2		0.0686	1,011.2
2017 年度	15,606.5		0.0686	1,070.6
2018 年度	16,281.0		0.0686	1,116.9
2019 年度	1,218.2		0.0686	83.6
単位	GJ	—	tCO2/GJ	tCO2
	EM _{BL}			6,204.0

6.3 リークエージ排出量

	活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
2013 年度	0			0
2014 年度	0			0

2015年度	0			0
2016年度	0			0
2017年度	0			0
2018年度	0			0
2019年度	0			0
LE				0

6.4 温室効果ガス排出削減量

項目		記号	
ベースライン排出量	(7.2)	<i>EM_{BL}</i>	6,204.0
事業実施後排出量	(7.1)	<i>EM_{PJ}</i>	4,250.0
リーケージ排出量	(7.3)	<i>LE</i>	0
温室効果ガス排出削減量		<i>ER</i>	1,954

7 省エネルギー量

注) 複数の方法論を採用している場合は、表を追加して方法論ごとにエネルギー使用量を記載すること。

	原油換算 (kl)		
	ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
	2329.7	2134.2	195.5

省エネルギー量 (原油換算) = 195.5 kl

9 再生可能エネルギー利用量

	モニタリング期間 (年 月 日 ~ 年 月 日)			
	単位	エネルギー使用量 (実績)	熱量換算 (GJ) (実績)	原油換算(kl) (実績)